



# つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校  
特別支援教室 つばさ  
令和5年7月 4 日  
つばさだより 第4号

「もちろんあせるときもあるけど、あせらず。寄り添って見守っていくこと。」

先日、某新聞の日々の相談欄である記事を目にしました。内容は、高校生のお子さんを心配されるお母さんの記事でした。部活も勉強も中途半端。塾もさぼり、宿題にも手が付かない。たまに勉強しても、わからないところはそのままにしている。お母さんは、その状況を見ていてイライラしてしまい、お互い暴力沙汰になってしまうことも…。お母さん自身の分析では、とにかく本人の「努力」が足りない。しかしどうしたらいいのかわからないという内容でした。こうした相談に日替わりでアドバイスを送る記事なのですが、担当された哲学者の回答に「なるほどなあ〜」と考えさせられました。回答者の哲学者の方いわく、まず、物事には「その時期」があるとのことでした。高校生なら勉強や部活に力を入れて当たり前という考えはあくまで一般論とし、人間の成長スピードは多様であり、特に精神面については差があるとのこと。18歳で大人になることは社会が求める一般論であり、高校生はかくあるべきということも、あくまで社会が求める平均的な目安に過ぎない。教育のスピードも同じであることを付け加えられていました。そして「やるべきこと」に気が付いたとき、人は本当の意味で大人になる。「その時期がくることを信じて見守ってください。」と結んでいました（もちろん本人を理解した上で必要な支援を行いつつ見守るということと解釈しました）。子供の成長にはいろいろな考えがあると思いますが、ともすると私たちはこの激変していく社会の中の「一般論」に、「必要以上」に大きく影響やプレッシャーを受けていることが多くあるのかもしれないと感じました。今やっておかなければと思うことや、学校での課題は確かにあります。ただ、そのために必要な支援や達成の速度は個々によって異なる。このことを頭に残し、あせらず、迷いながら寄り添って見守っていくことが大人の役割でもあると思った次第です。

## 指導にも使う絵本の紹介コーナー

### 「こころってなんだろう」作・ほそかわてんてん

「こころってなんだろう」自分や相手の気持ちや感情についてわかりやすく描かれている絵本です。こころはどのように自分の中に生まれ、成長し、日々どのように使われているのか。個別や小集団指導の中で子供達と × 読み合せています。自分の感覚や感情への認知は人によって本当に様々で、さらにそれを言葉で整理していくことは難しくもありますが、そっと寄り添ってくれる内容になっています。



## お知らせ

### ・夏休み前後の指導日について

夏休み前の指導終了日は、7月13日（木）です。また、夏休み明けの指導開始日は、9月4日（月）です。

### ・個別指導計画の評価について

個別指導計画（評価）を、7月14日（金）に各ご家庭にお子様を通じて配布します。1学期の学びをご覧いただき、ご家庭で保管してください。訂正依頼等ありましたら、つばさまでご返送ください。訂正等無い場合は封筒のみご返却ください。※7月入級の方も対象になります。